

荒木文相閣下！ 不肖は帝國現在の教育の實情に鑑み、其將來を憂慮して、茲に微衷の一端を献言いたします。

不肖は草莽の一野人であり、其前生の間に、内外の教育に携はりたる實際に徴し、教育の眞義を闡明し、現在全世界の學校に於て行はるる、所謂教育と稱するものは、眞の教育に非ずといふ結論を得、過去十余年の間、著書に雜誌に於て新聞に、其所論を發表し、民間に於ける相當の識者からは、夫々共鳴賛同を得たのであります。

不肖は此機會に於て、眞の教育にあらざる今日の教育が、此非常時局に對しては勿論、帝國將來の消長に如何なる影響を及ぼし、將來に及ぼすに到らんかを略説して、御考慮を煩はしたいと思ふのであります。

内郷亦幸 帝國の將來を憂慮して特に荒木文相閣下に献言す 大内民恵

一、教育改進を急務として、村方官吏委員を擁護す。二、村内外各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、總現和進努力の實現を期す。三、农村社会事業の徹底を期す。

我福島縣に於ける、去る學年未の小学校教員の需給を概観するに、縣下七千四百人の教員中、大陸進出と軍需工業への轉出とで、六百余人の缺員を生じ、今春就任した師範新卒業生二百五十人を控除するも、尙三百五十人を不足したるを以て、當局は窮余の一策を講じ、曾て老朽者として淘汰したる退職者中より二百五十人、同じく退職女教員中より五十人を、辛うじて採用したるも、尙且つ五十人を不足し、之が對策に苦心して居るの事であり、加ふるに本縣小

學校教員中には、肺結核患者を出す事多く、一ヶ月約三人が教壇を退去し割合になつて居り、現に在職者中にも、相當(約二百人)輕微の患者を包含する事、眞に憂ふべき現象を呈して居る次第なのであります。其は兎に角として、之を要するに本縣下に於て以上の數字を總合して概算するに、此非常時局に當面して、國民教育の中堅として、重大責任を有する小学校教員中、約六割は、物質的待遇に憧れて、其天職を弊廢の如く放棄して他に轉職したるものにして、且現に在職中の教員中にも事情が許すならば、其去就に動搖を呈しつゝあるものであります。

以上の本縣下の比例を以て、全國に於ける二十五萬二千六百人の小学校教員に就て推考するに、其六割即ち一萬五千五百六十人が他に轉出し、一學級の兒童數を四十三人(最近の統計)とすれば、六十五萬一千七百八人の兒童に對して、一大影響を及ぼしたる事となり、尙更に在職中の教員間に、動搖を見るに及ぶに至つては、洵に寒心に堪へない次第なのであります。

論總ての學校に於ては、教育勸誘の聖旨を拳々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國憲を重んぜず國法に違はざる卒業生を出したる其學校長も其教員も、更に其責任を負ふて居ないのであります。實に菓子屋にも八百屋にも如かざる無責任極まる次第であり、今日この制度に於いては如何とも致し難いのであります。

村内の教育進行を奨励し、且之を獎勵す。本報を本村役員者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。餘餘力を以て國政進歩に當る。

抑々か、る憂慮すべき現象を招來するに到れる根本原因が、何れにあるかと申しまするに、之を一言にして盡せば、教育の眞義を没却したる現行教育制度の缺陷にあるものと、不肖は斷言して憚りないものであります。

之を手近かな例を擧げて説明いたしますれば、菓子屋なり八百屋なりが、其販賣した菓子なり野菜なりを對しては、絶対に其責任を負ふのであります。小学校は勿

下してあるのであります。それを私案に於ては、師範を出て、就任した小學校を、終生の任地として、其受持はすべて持上り法を原則とし、現行の六年制に於ては、其三十年間に二百五十人を教育し、其卒業後一生の間、師弟の關係を持続して、之を指導するは勿論、師としての責任を充分に負ふこと、不事なるのであります。

不肖は此等の主義に對して絶對繼續主義、責任分擔主義の名稱を附してあるのであります。それには先づ、教員の精神的物質的兩方面の待遇を考慮しなければならぬのであります。目下本縣の小學校教員の平均俸給は五十六圓で、最高給が百六十圓であり、こゝに於ける待遇の職業に對しては、如何に天職と申せ、萬事は衣食足りて、學費を十分に有し、優秀なる子弟を有する父兄に在りては、師範に入れて教員にするに及ぶべき事は、夢想だもいたしません。こゝに教育制度改

講話があつた。同會は二十一年の創立で、會員三十名和協一致、今次事變に當りても醒しき活動をなして居る。本報發行は内郷一報の事業にして、其の社務は子孫に傳ふる遺言を継ぐものなり。

◎從業員大募集! 人 員 壹千三百名(経験が無くても仕事が出来ます) 内 採炭夫 一〇〇〇名 坑内機械夫 一〇〇〇名 支柱夫 一〇〇〇名 坑内工作夫 五〇〇名 坑内運搬夫 一〇〇〇名 實業會社にて賃賃いたします(身体壯健のもの) 満十六歳以上五十歳まで(就業時間八時間乃至拾時間) 賃金 一日三圓以上四圓(請負制)就業時間八時間乃至拾時間) 世帯持には住宅を無料で貸與いたします 獨身者のために寄宿舎あり(食費器具共一日四十五錢) 就業場所 磐城、住吉坑、町田坑(常磐線磐城下車)長倉坑(本線下車) 希望者は最寄職業紹介所か町役場又は直接會社に御申込下さい! 東北第一の大炭礦!! 磐城炭礦株式會社礦業所 (福島縣石城郡内郷村大字綴)

論總ての學校に於ては、教育勸誘の聖旨を拳々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國憲を重んぜず國法に違はざる卒業生を出したる其學校長も其教員も、更に其責任を負ふて居ないのであります。實に菓子屋にも八百屋にも如かざる無責任極まる次第であり、今日この制度に於いては如何とも致し難いのであります。

し平市と聯合して平市に於て開催の事、講師として福島高商教授久保英一氏を招聘する事。

矢野 恒太郎 大内 民憲 著
教育制度改革概論
 (四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實験とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の發見校學に違わらず。これと未だ一人の執筆者も現はれず。

我國教育學界の權威
 前京大總長小西重直博士
 書を著せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地ノ嘗試ニ基キ、學界ニ大精神ヲ拜味仕テ不慮感ニ河ナレト申候云々。

春川巡查の榮譽
 警視廳御願派出勤務の
 東京京橋三丁目
日本評論社
 東京京橋三丁目
内郷村報社

村會 記

三月十八日の村會に於て左の通り決定。

議案第一號 行政區長
 順序は區順 ○点は再選
 區長 區長代理
 大越貞次郎 鈴木留次郎
 ○高萩 佐重 ○藤谷豊之助
 ○久野藤二郎 鈴木 六造
 ○金澤 慶一 沼田 敬助
 齋藤 直重 山崎 美隆
 遠藤萬四郎 遠藤千代次
 網掛榮之助 菅本淺太郎
 大平彌惣次 萩 定隆
 ○山下喜代治 吉田伊三郎

議案第二號
 議道高野綴停車場線道路修繕工事ノ内へ砂利寄附採納ヲ出願スルモノトス。

議案第三號
 歳入歳出追加豫算
 (歳入) 金參千七百圓
 (歳出) 金貳千貳拾六圓
 經常部追加豫算額 金九百八拾五圓
 臨時部追加豫算額

祭が行はれ、翌十九日午後零時五十分、綴驛に無言の凱旋をした。沼田村長を初め、役場吏員其他各種團體代表、愛國、國防婦人會員及小學校兒童等多數之を出迎ひ、僧侶の回向、遺族其他の焼香後、在郷軍人分會旗を先頭に、以上の人々に送られて、懐き我家に歸られた。

特志の數々
 「其一」金貳圓拾貳錢。内郷尋高小學校高等科卒業生小松勇太郎君外六十四名は卒業記念費の剩餘金を、村銃後會に寄附。
 「其二」金拾圓。内町(東京在住)金成久三氏が、村銃後會に寄附。
 「其三」金五圓。高坂田口ツヤ氏より村銃後會に同上
 「其四」金拾圓。高坂田口ツヤ氏より、本村愛國、國防婦人會に、各五圓宛同上
 「其五」高坂田口ツヤ氏は退職記念として、作法教授用衝立式襖一具を、内郷家政女學校に同上。

警防團の組織完く成る
 法令に基き、輝やかしき。

第一分團長	廣井 將之
第一班長	小松武一郎
第二分團長	菅波 那次
第二班長	野木 久彌
第三分團長	菅波 三平
第三班長	菅波 那次
第四分團長	菅波 那次
第四班長	菅波 那次

新舊校長の歡送
 在任四ヶ年、特に顯著なる成績を挙げた、第一校長佐藤文雄氏は、警視第一校長に榮轉し、其後任として小名濱校の首席訓導として令名を馳せた増田銀二氏が之亦榮轉して来たので、四月六日内郷館に於て、其歡迎會が開催せられ、夫々代表的人々百數十人出席、

農會總代
 内郷村農會に於ては、四月一日選舉を行ひ、左の通り總代を決定した。
 白水、小松武市郎、宮、藁谷豊之助、高萩忠太郎、内町、仲繪藤一、金成佐久治、上綴、沼田敬助、下綴、山崎米太郎、齋藤彌平、高坂、根本保吉、鈴木與作、御殿、吉田建吉、鈴木與作、御台境、草野庄太郎、菅本忠義、小島、山下竹千代、志賀榮吾。

田口女史の退職と其篤志
 多年内郷家政女學校に教鞭をとり、生徒には敬慕せられ、父兄からは信頼せられ、將た其功績顯著であつた、田口つや子女史には、家事の都合と、後進に道を開く希望とにより、去る學年末を期して勇退したので村内一般より非常に惜まれて居る。又同女史は去るにのぞみて、別項掲載の如くそれら各方面に金品を寄附をしたので、教育界稀に見る篤行として、之を賞揚せられて居る。

内郷村學事概報

尋常高等校(高坂)

在籍、一五九二。修業生、一三四七。卒業生、二四五。優等賞、三二八。精勤賞、七七五。六ヶ年精勤賞、五八。部會賞、四。惠原猪久男、五十嵐健夫、大和田千恵子、遠西三子。

新入學生、二五一。高等科。在籍、一〇一一。修業生、五八五。卒業生、四一六。優等賞、二二六。八ヶ年精勤賞、六二。部會賞、七。草野弘、寒河江秀雄、鈴木昇、小松勇太郎、今ハルエ、三浦ツネ子、今ミヨ。

新入學生、六五四。中等學校入學者。中學校。惠原猪久男、飯田榮一、鈴木弘行、坪井清、佐川七郎、渡邊多賀夫、根本禮二、深瀬正雄、石川銀壽、青木稔、五十嵐一明、藁谷毅、鈴木茂、近藤榮三、下遠野信吉、西連寺愛露。商業學校。遠藤純章、高秋忠夫、荒木喜夫、石井喬、大勝一雄、小山田德榮。

高等女學校。志賀千枝子、大和田千恵子、鈴木佐季子、中川清子、馬目キサ子、櫻井芳子、安齊幸子、反保幸子、中山紀美、宮川紀子、菊池榮子、松村智恵子、藁谷ナガ子。教員異動、轉出、御厩校へ。市川善一。轉入、御厩校より竹内忠。

内郷村青年學校(高坂) 在籍、五四。卒業生、二。修業生、五二。精勤生、若松利四郎、宮澤榮夫、小松秀平、山崎正士、吉田勤、小林正美、渡邊秀雄。五ヶ年

内郷第一校(御厩)

在籍、四三九。修業生、三七五。卒業生、六三。優等賞、八九。進歩賞、三。精勤賞、二二。六ヶ年精勤賞、一。部會賞、一。菅波惣太夫。中等學校入學者。中學校、菅波惣太夫、柳沼裕九、齋藤彌四郎、熊田福松、草野辰雄、佐伯一夫。

平商業學校、東海林忠人。受持教員、廣木春正。教員異動、轉出、佐藤文雄、警崎第一へ。竹内忠、内郷高へ。鳥實快裕、神奈川縣へ出向。淺野キミ、勿來尋高小學校へ。轉入、塔子銀二小名濱校より、市川善一、内郷高より。佐藤義雄、新卒業生、北原智江子、山田校より。

第二校(内町) 在籍、一九六一。修業生、一六八。卒業生、二七四。優等賞、三九九。進歩賞、四〇。精勤賞、七七〇。六ヶ年精勤賞、四五。部會賞、四。菅原道夫、編引勝義、金澤トセ、秋山壽美子。中等學校入學者。中學校、菅原道夫、中野正、仲繪榮、編引勝義、大越武、石田寅雄、商業學校、高井義裕、櫻村忠雄、佐藤光平、高原一、齋藤嘉一、佐久間喜代治、伊藤四郎、我妻正吉、高等女學校、金澤トセ、安齊和子、長谷川花枝、高橋照代、内山下キ、大谷昌子。受持教員、四〇名中、二〇名入學、受持訓導、大越卓、横山武、小泉文好、高木勝男。新入學生、三八六名。

教員異動、轉出、小泉文好、玉川校へ。坂本明之、高久校へ。吉田忠五郎、好問尋高校へ。大友ハナ湯本尋高校へ。菊地きよ、田村郡今泉校へ。轉入、大越貞次、高坂校より。白

岩信祐、安達郡高川校より。小野幸一、好問尋高校より。渡邊チエ子、相馬郡上野野校より。常盤澄子、小川校より。新任、市川英雄(短期現役中)。古市カツヲ。

第三校(宮) 在籍、一五〇四。修業生、一二八。卒業生、二二二。優等賞、三一五。精勤賞、七七六。六ヶ年精勤賞、四九。進歩賞、六四。部會賞、四。本田信義、加藤水啓吉、高秋信子、中井川タカ子。新入學生、三二四。六ヶ年精勤賞兒童保護者、三九。中等學校入學者。中學校、本田信義、渡邊義春、瓜田壽、關唯夫、渡邊香津未、加藤水啓吉、水野谷昭二。商業學校、添田庄一、鈴木藤吉郎、高等女學校、高秋信子、藁谷アイ子。受持訓導、上遠野馨、鈴木正和、田二郎、竹島國基。教員異動、轉出、高木一、湯本尋高校へ。上遠野馨、福島第六校へ。轉入、三上富正、田村那夏井第一校より。一名缺員。

内郷村報の六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力増進を謀る。
二、村内外各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、協同和協努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の治安維持を期し、且之を獎勵す。
五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其協同向上を期す。
六、餘餘力を以て國庫増進に努むる。

村葬執行

今次事變に名譽の戦死を遂げた、左記四勇士の村葬は、三月十九日第二小學校に於て、鄭重厳肅に執行せられた。

陸軍歩伍長勳八 齋藤久二 同 輜重上等兵 立花丑之 同 歩兵一等兵 佐藤第五 同 特務二等兵 岩崎森三郎

資材 官民協議會

三月二十日より二日間、石炭礦業聯合會主催で、丸の内工業俱樂部に開かれた同會へ、磐城よりは、田寺金原、長堀、林田、久栖見石田、森戸、上原、小島の九氏列席、重要協議に参加すると共に、種々有益なる資料を得られたる由。

慰問袋

今回本村に割り當てられた袋数は、四一六ヶの多數なるを以て、各區長及愛婦國防兩婦人會にては、協力之が蒐集に努めて居る。

御厩婦人農會

三月三十日第一小學校に春季總會を開き、堀一郎、成田キミ子兩氏の有益なる講話があつた。同會は二十一年の創立で、會員三十名和協一致、今次事變に當りても醒しき活動をなして居る。

青年團總會

四月九日家政女學校に開催、十四年度豫算決定後、役員選舉を行ひ、馬目太平治氏は團長に留任、藁谷政二鈴木安男兩氏、副團長に當選、多數來賓参列、頗る盛會であつた。

内郷村農會

三月二十三日村會議事堂に開會、豫算決算會を開いた。其詳細は次號に掲載する事とした。

磐城の昇給昇格

七百余名の磐城役員は、此程全部昇給し、更に其内二十二名は社員に昇格、眞に春風駘蕩たりた。

郡方面委員會

三月二十九日内郷村役場内に開催、出席者は大内會長田口副會長外九名にして左の事項を協議決定した。

聯合評議員會

昭和十二年、三年度收支決算承任の件。昭和十四年度收支豫算決定の件。春季總會開催の件。四月中旬を期し平市と聯合して平市に於て開催の事、講師として福島高商教授久保英一氏を招聘する事。

本報發行部大内一助の夢

本報發行部大内一助の夢は、其の社報は手紙に似る。其の社報は手紙に似る。其の社報は手紙に似る。

論議の學校に於ては、教育勸導の聖旨を奉々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國意を重んぜず

論議の學校に於ては、教育勸導の聖旨を奉々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國意を重んぜず

論議の學校に於ては、教育勸導の聖旨を奉々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國意を重んぜず

論議の學校に於ては、教育勸導の聖旨を奉々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國意を重んぜず

論議の學校に於ては、教育勸導の聖旨を奉々服膺する國民教育道徳教育を施すことを明示してあるのにも關はらず、國意を重んぜず